

植物防疫基礎講座：アブラムシ類の見分け方(4)

果樹のアブラムシ類(1)

皇學館大学 ^{そう}宗 ^{りん}林 ^{まさ}正 ^と人

はじめに

日本から記録されたアブラムシのうち、果樹を加害する種類として、農林害虫名鑑には33種が記されている。さらに宮崎(1983)によって、上記のものを含めて42種が本誌「植物防疫, 37(7):36」に記録されている。

本文では、果樹のうちカンキツ類、クリおよびカキを加害するアブラムシについて、種類を区別し得る検索表と各種の形態ならびに加害の概要を記述する。

I カンキツ類を加害するアブラムシ

1 アブラムシの種類

カンキツ類を加害するアブラムシとして、マメアブラムシ、ワタアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ニワトコフクレアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、モモアカアブラムシ、コミカンアブラムシ、ミカンクロアブラムシなどが知られている。そのほかにクスオナガアブラムシ、ムギワラギクオマルアブラムシ、ハゼアブラムシなども記録されている。

2 種の検索表

- (1) 腹部第6および7節側面に多数の顕著な条痕がある。後脚脛節の内側に短くて丈夫な、ほぼ三角形の刺毛がある……………(2)
- 腹部側面の条痕および後脚脛節に上記のような刺毛を欠く……………(4)
- (2) 体は褐色ないし黒褐色で光沢がない。触角第3節の毛は長く、その節の基部直径の約2.5~2.7倍長。角状管は尾片よりも短い……………ハゼアブラムシ
- 体は暗褐色ないし黒褐色で光沢がある。触角第3節の毛は、その節の基部直径と同長かいくらか長い。角状管は尾片よりも長い……………(3)
- (3) 体暗褐色。体長1.5~1.8mm。尾片の毛は約18本。生殖板の毛は約15本 ……コミカンアブラムシ
- 体黒褐色。体長約2mm。尾片の毛は約22~26本。生殖板の毛は40~45本……………ミカンクロアブラムシ

- (4) 額瘤は小さい……………(5)
- 額瘤はよく発達し、顕著である……………(8)
- (5) 角状管は平滑で、基部の幅の約1.5倍長。尾片は半円形またはヘルメット状で基部の幅よりも短く、毛は4~6本……………ムギワラギクオマルアブラムシ
- 角状管は黒色、円筒形で基部の幅の2.0~4.2倍長、覆瓦状を呈する。尾片は準円錐状で基部の幅よりも長く、毛は4~20本……………(6)
- (6) 体は黒色で光沢あり、腹部背面の皮膚は肥厚する……………マメアブラムシ
- 体は黄緑色ないし緑色で光沢なく、腹部背面の皮膚は肥厚しない……………(7)
- (7) 尾片は淡黄色または淡褐色で、4~6本の毛を生じる……………ワタアブラムシ
- 尾片は黒色で10~12本の毛を生じる……………ユキヤナギアブラムシ
- (8) 額瘤は発達して内側に傾く。無翅胎生雌虫の触角第3節に二次感覚器を欠く……………モモアカアブラムシ
- 額瘤は発達して外側に傾く。無翅胎生雌虫の触角第3節に二次感覚器をそなえる……………(9)
- (9) 体は黒褐色。角状管や尾片も黒色で、尾片は角状管よりも長く、毛は約20本……………クスオナガアブラムシ
- 体は黄緑色、橙黄色。角状管や尾片も淡色で、尾片は角状管よりも短く、毛は4~6本……………(10)
- (10) 頭部、触角および脚は黒色。角状管は褐色で、中央部少し膨れ、尾片の1.6~1.7倍長。体長2.5~2.7mm。……………ニワトコフクレアブラムシ
- 頭部、触角および脚は淡色。角状管は淡色であるが先端部が褐色、長円筒形で尾片の約2倍長。体長約1.7~2.5mm……………ジャガイモヒゲナガアブラムシ

3 各種の解説

- (1) マメアブラムシ *Aphis craccivora* Koch (図-1:1, 6, 17)

無翅胎生雌虫の体色は黒褐色で光沢がある。体長約1.5mm。触角、脚は各節先端部を除き黄白色。角状管は円筒形で先端部はやや細くなる。尾片は黒色で毛は

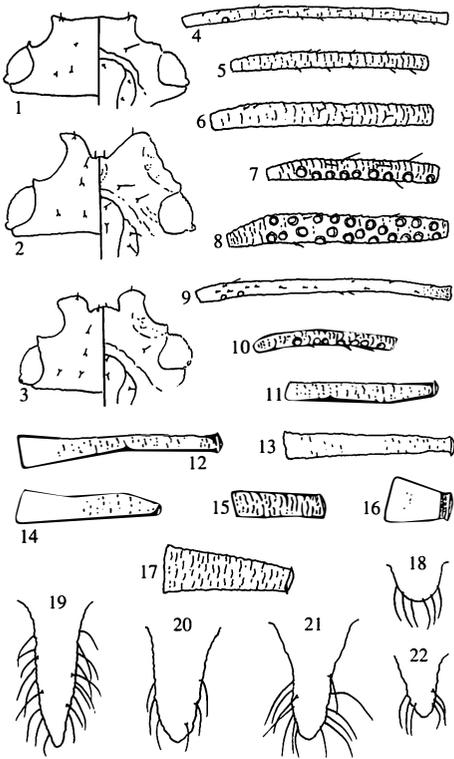


図-1 無翅胎生雌虫の頭部(1~3), 触角第3節(4~6, 9), 角状管(11~17), 尾片(18~22), 有翅胎生雌虫の触角第3節(7, 8, 10)

マメアブラムシ(1, 6, 17), ジャガイモヒゲナガアブラムシ(2, 4, 12), モモアカアブラムシ(3, 5, 11, 20), ユキヤナギアブラムシ(7, 21), ムギワラギクオマルアブラムシ(8, 16, 18), クスオナガアブラムシ(9, 14, 19), ワタアブラムシ(10, 15, 22), ニワトコフクレアブラムシ(13).

5~6本。有翅胎生雌虫の触角第3節に3~6個の二次感覚器を1列にそなえる。幼虫は暗褐色で白粉を装う。産卵雌虫は無翅で背面光沢なく、うすく白粉を装い、後脚脛節に偽感覚器を約90個有する。雄虫は有翅形、触角第3~6節に各35, 29, 23個の二次感覚器をそなえる。

本種は世界各地に分布する。コマツナギやニセアカシアに卵態で越冬する完全生活環と南関東や近畿地方ではレンゲソウやシロツメクサに胎生しながら越冬する不完全生活環がある。マメ科植物に大発生するが、ミカン、ナズナ、スベリヒユ、ギシギシなどにも寄生する。

(2) ワタアブラムシ *Aphis gossypii* GLOVER (図-1: 10, 15, 22)

無翅胎生雌虫は暗緑色、青緑色または緑色であるが、黄色のものもある。体長約1.1~1.7mm。額瘤は発達しない。頭部背面の毛は短い。口吻末端節は後脚附節第

2節とほぼ同長。腹部背面第7・8節に帯状紋を有する。角状管は円筒形で覆瓦状を呈する。尾片は淡黄色または褐色で、先端丸味があり、触角第5節よりもわずかに長く、毛は4~6本。有翅胎生雌虫の触角第3節に4~7個の二次感覚器をそなえる。腹部背面第7・8節に帯状紋があり、腹部側面には4個の大形斑紋がある。

本種も完全生活環と不完全生活環があり、近畿地方ではムクゲ、ツルウメモドキ、クロウメモドキを一次寄主とするが、九州地方ではオクラにも卵態で越冬するものが見られた。二次寄主はミカンのほかマサキ、ビワ、キュウリ、マクワウリ、スイカ、カボチャ、ナス、パレイシヨ、シソ、ヤブカラシ、ミツバ、ナシ、ユリ、キク、チューリップ、ハッカ、ウツギ、エノキグサ、サトイモ、イヌノフグリ、イタドリ、ワタなどすこぶる多数の植物に寄生する。世界に広く分布し、植物のウイルス病を媒介することでも重要な害虫である。近畿地方ではキク、イチゴ、ナズナ、タチアオイ、イヌノフグリ、タンポポなどに胎生生殖をしながら越冬するものもある。

(3) ユキヤナギアブラムシ *Aphis spiraeicola* PATCH (図-1: 7, 21)

無翅胎生雌虫は黄緑色ないし緑色で、体長約1.5mm。腹部背面に斑紋を欠き、第1~6節背面は網目状。角状管は黒色で基部の幅の約3倍長。尾片も黒色で基部の幅の約1.7倍長、中央部ややくびれ、毛は10~15本。有翅胎生雌虫は体長約1.7mm。触角の二次感覚器は第3節に6~12個、第4節に0~4個。腹部背面の斑紋は第7・8節に小帯状紋がある。腹側の斑紋は顕著である。

本種はミカン類のほか、ユキヤナギ、コデマリ、キク、ギシギシ、ヒメジョオン、ヤツデ、ナシ、ビワ、トベラなど多くの植物に寄生。一次寄主はユキヤナギである。

(4) ニワトコフクレアブラムシ *Aulacorthum magnoliae* (ESSIG et KUWANA) (図-1: 13)

無翅胎生雌虫は橙黄色ないし黄緑色、頭部および胸部は多少橙色を帯びる。体長約2.5~4mm。頭部には微細な顆粒を全面に装う。額瘤は発達し、外側に傾く。触角第3~5節の末端部と第6節は黒色、第3節の基部近くに1~3個の二次感覚器をそなえる。腹部背面に斑紋を欠く。角状管は中部膨れ、体と同色で末端は黒色、触角第5節とほぼ同長。尾片は準円錐形で毛は4~6本。有翅胎生雌虫の体長約2.6mm。触角第3節に18~25個の二次感覚器をそなえる。腹部各節背面および側面に斑紋を有し、特に背面第3~5節のものは癒合することがある。

本種は果樹のほかニワトコ、ナンテン、アセビ、アサ

ガオなど多くの植物に寄生する。夏の高温時にはアカザの根にも寄生する。一次寄主ニワトコの芽や枝に生まれた卵で越冬する完全生活環と、冬でも残されたわずかの葉に無翅胎生雌虫とその幼虫などで越冬し、5月ごろには他の二次寄主植物に移住する不完全生活環がある。

(5) ジャガイモヒゲナガアブラムシ *Aulacorthum solani* (KALTENBACH) (図-1:2, 4, 12)

無翅胎生雌虫は体長約2.5mm, 黄緑色で光沢がある。触角は体長の約1.5倍長で, 第3~6節の先端と鞭状部は黒色, 第3節基部に1~3個の二次感覚器をそなえる。角状管は長円筒形で体と同色, 先端部黒色。尾片は角状管の約1/2で, 毛は6~7本。有翅胎生雌虫は黄緑色で腹部背面各節に横帯紋がある。触角第3節に10~17個の二次感覚器をそなえる。

本種は多食性で果樹, 野菜, 草花や野草にも寄生するが, ミカンに寄生することは少ない。完全生活環と不完全生活環があり, 寒地では秋に産卵雌虫や雄虫が出現し, 野草などに卵態越冬するという。暖地では胎生雌虫が多くの植物上で越冬する。

(6) ムギワラギクオマルアブラムシ *Brachycaudus helichrysi* (KALTENBACH) (図-1:8, 16, 18)

無翅胎生雌虫は黄緑色で光沢があり, 体長約2mm。角状管の基部は体と同色, 前半分は黒褐色, 平滑で基部の幅の約1.6倍長, 先端部に顕著な縊れがある。尾片は黒褐色で毛は4~6本。有翅胎生雌虫は腹部背面の皮膚肥厚し, 特に第3~5節では癒合する。触角第3節に23~30個, 第4節に7~8個の二次感覚器をそなえる。

本種はウメ, スモモに卵態で越冬し, 翌春寄主の発芽と同時にふ化し, 新葉に寄生する。寄生された葉は著しく捲く。ミカンに寄生することは少ない。

(7) モモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER) (図-1:3, 5, 11, 20)

無翅胎生雌虫は黄白色, 黄緑色, 緑色, 赤褐色など体色に変化があるが, ミカンでは黄緑色のものが見られ, 個体数としては少ない。体長1.5~2mm。額瘤はよく発達し内側に突出する。触角は体よりも短い。角状管は体と同色であるが, 中央部から先端にかけてわずかに膨らみ, 先端部は暗色。尾片は準円錐状で基部の幅の約1.5倍長, 毛は6本。後脚附節第2節下側の2次毛は4本。有翅胎生雌虫の体長約2.3mm。触角第3節の二次感覚器は11~14個。腹部背面と側面に斑紋を有し, 特に第4~6節背面のものは癒合して大形となる。

本種の完全生活環では一次寄主はモモのほかウメ, スモモなどで, 芽の基部に生まれた卵で越冬。幹母成虫は4月初めに現れ, 新葉を縦に捲いた虫瘤の中に生活す

る。ここに有翅胎生雌虫が出現して, 二次寄主であるハクサイ, ダイコン, キャベツ, ジャガイモ, ナス, ニンジン, ホウレンソウ, キュウリ, タバコ, カキ, リンゴ, ナシ, ハボタン, キンセンカ, イヌガラシ, ギシギシなど多数の野菜, 果樹, 草花, 野草に移住する。暖地での不完全生活環では二次寄主上に胎生雌虫で越冬する。

(8) クスオナガアブラムシ *Sinomegoura citricola* (van der Goot) (図-1:9, 14, 19)

無翅胎生雌虫は黒褐色, 体長2.5~3mm。触角第3節は先端部黒く, 基部近くに2~4個の二次感覚器をそなえる。腹部背面は網目状を呈し, 第8節背面の毛は4本。角状管は黒色で, 中央部わずかに膨らみ, 覆瓦状を呈する。尾片は準円錐形で, 角状管とほぼ同長, 毛は約20本。有翅胎生雌虫の体長は約2.7mm。触角は黒色, 二次感覚器は第3節に13~18個, 第4節に0~1個を一列にそなえる。体側に斑紋を有するが背面にこれを欠く。

本種はクスノキの新梢や新葉に寄生するが, ミカンにも寄生することが記録されている。

(9) コミカンアブラムシ *Toxoptera aurantii* (BOYER de FONSCOLMBE) (図-2:24, 26, 30, 32, 33, 34, 36)

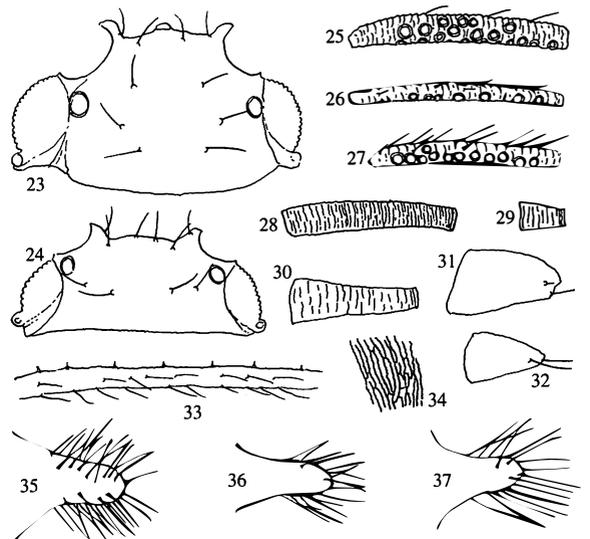


図-2 有翅胎生雌虫の頭部 (23, 24), 触角第3節 (25~27), 角状管 (28~30), 後脚附節第1節 (31, 32), 後脚附節 (33), 腹部側面の条痕 (34), 尾片 (35~37)

ミカンクオアブラムシ (23, 25, 28, 31, 35), コミカンアブラムシ (24, 26, 30, 32, 33, 34, 36), ハゼアブラムシ (27, 29, 37)。

無翅胎生雌虫は暗褐色でやや光沢あり、体長1.5~1.8 mm。角状管は黒色、円筒形で尾片の約1.2倍長。尾片は黒く、毛は約18本。腹部第6および7節腹側面に多数の条痕がある。後脚脛節の内側には短くて丈夫な、ほぼ三角形の毛が約8本あり、この毛で腹側面の条痕を掻き発音するといわれている。附節第1節の毛は2~3本。有翅胎生雌虫の翅斑は濃い黒褐色。触角第3節は細く、二次感覚器は3~7個、第4節には0~8個を一列にそなえる。腹部第7および8節背面に帯状斑紋がある。前翅の中脈は1回分枝するが、ときには2回分枝のものもある。

本種はミカン類のほかツバキ、サザンカ、チャ、ヒサカキ、ハマヒサカキ、モッコク、イタビカズラ、イヌビワ、ガジュマル、イスノキ、カナメモチ、ザクロ、カラタチバナ、テイカカズラ、ブナ、アラカシ、シキミ、ヤブニツケイ、アセビ、トキワマンサク、ケヤキ、ヤツデ、ヒイラギ、クチナシなどにも寄生する。

(10) ミカンクロアブラムシ *Toxoptera citricida* (KIRKALDY) (図-2:23, 25, 28, 31, 35 および口絵)

無翅胎生雌虫の体長約2 mm。角状管は触角第4節とほぼ同長。尾片は触角第5節とほぼ同長で毛は22~26本。附節第1節の毛は2~3本で中央のものは太いが、両側のものは短いか退化する。生殖板の毛は40~45本。有翅胎生雌虫の触角第3節は中央部膨らみ、二次感覚器13~17個をほぼ3列にそなえる。第4節に感覚器を欠く。腹部側面の条痕、後脚脛節の短毛はコミカンアブラムシと同様である。

本種はミカン類のほかニセゴシュユ、サンショウ、タチバナモドキ、ナシなどに寄生する。

(11) ハゼアブラムシ *Toxoptera odinae* (van der Goor) (図-2:27, 29, 37)

無翅胎生雌虫は暗褐色、体長約1.75 mm。触角第3節の長毛は約14本、第4節は第5節よりもわずかに短い。腹部背面は網目状、腹側面の条痕は顕著。後脚脛節には短くて丈夫な毛が約7本。角状管は暗褐色で短く、基部の幅の約2倍長。尾片は黒色、準円錐状で、毛は約16本。有翅胎生雌虫の体長約2 mm。触角第3節の長毛は約25本、二次感覚器は第3節に10~14個、第4節に1~9個。腹部背面には各節に横帯紋がある。体側斑紋も顕著で各1個の小突起をそなえる。第8節背面の長毛は7~12本。尾片の毛は約20本。

本種はハゼ、ウルシ、ヌルデ、タラノキ、ミカン、トベラなど約20種に寄生することが知られている。

II クリを加害するアブラムシ

1 アブラムシの種類

クリを加害するアブラムシとして、クリイガアブラムシ、クリヒゲマダラアブラムシ、ニッポンケクダアブラムシ、クワナケクダアブラムシ、クヌギトゲアブラムシ、クリオオアブラムシ、ニワトコフクレアブラムシなどが知られている。

2 種の検索表(無翅形)

- (1) 体の背面または側面には突起がある……………(2)
 - 体の背面や側面には突起を欠く……………(4)
- (2) 短翅形では体の側面に小形暗褐色の突起がある……………クリヒゲマダラアブラムシ
 - 無翅形の背面には乳頭状または分枝状・星状の突起体がある……………(3)
- (3) 体の背面突起は乳頭状で、それぞれはさらに鱗片状の小突起を多数そなえる。角状管を欠く。クリのイガに群生する……………クリイガアブラムシ
 - 体の背面と側面に顕著な分枝状、星状、毛状の突起体を有する。角状管は長く、少数の短毛を生ずる。葉裏に寄生する……………クヌギトゲアブラムシ
- (4) 体は橙黄色、体毛は短い。角状管は褐色、末端は黒色で中央部少し膨れて無毛……………ニワトコフクレアブラムシ
 - 体は黒色ないし黒褐色、多数の長毛がある。角状管の基部は広い円錐形または円筒形で中央部膨れ、多数の長毛がある……………(5)
- (5) 体は黒色、大形で体長約3.5~4 mm、腹部はほぼ球形。頭部と前胸は癒合しない。触角第3および4節にはそれぞれ約8個および6個の二次感覚器をそなえる……………クリオオアブラムシ
 - 体は暗褐色または黒褐色、体長約2.5 mm、やや扁平である。頭部と前胸は癒合する。触角第3および4節に感覚器を欠く……………(6)
- (6) 体暗褐色。角状管は黒褐色で後脚脛節の0.8~0.9。口吻末端節は後脚附節第2節の約1.84倍長。有翅胎生雌虫の触角第3節には13~25個の二次感覚器をそなえる……………クワナケクダアブラムシ
 - 体黒褐色。角状管は黒色で後脚脛節の0.61~0.66。口吻末端節は後脚附節第2節の1.4~1.57倍長。有翅胎生雌虫の触角第3節には8~16個の二次感覚器をそなえる……………ニッポンケクダアブラムシ

3 各種の解説

- (1) ニワトコフクレアブラムシ *Aulacorthum*

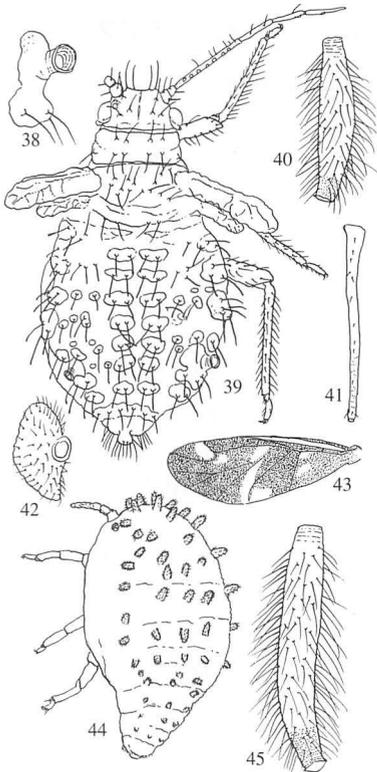


図-3 クリのアブラムシ (38~45)、クリヒゲマダラアブラムシ (39: 短翅形全体図, 38: 角状管), ニッポンケクダアブラムシ (40: 角状管), クヌギトゲアブラムシ (41: 角状管), クリオオアブラムシ (42: 角状管, 43: 前翅), クリイガアブラムシ (44: 無翅虫全体図), クワナケクダアブラムシ (45: 角状管)

magnoliae (ESSIG et KUWANA) (ミカンの項参照)

(2) クヌギトゲアブラムシ *Cervaphis quercus* Takahashi (図-3: 41 および口絵)

無翅胎生雌虫は黄色, 体長約 1.7 mm。体の背面と側面に顕著な分枝状, 星状, 毛状の突起体を有し, 珍奇な形態をする。触角は 4 節。複眼は 3 個の個眼からなる。口吻末端節は細長で後脚附節第 2 節の約 2 倍長。角状管も細長で, 基部わずかに太く, 触角とほぼ同長で少数の短毛を生ずる。尾片は半円形で中央部先端に小突起体がある。有翅胎生雌虫は体に顕著な突起体を欠くが, 頭部背面, 中胸背面, 腹部第 7 節背面に小指状突起を有する。触角は 5 節で, 第 3 節に 4~6 個の二次感覚器をそなえる。腹部背面に暗褐色の帯状斑紋を有する。角状管は黒褐色で触角の約 0.7, 約 10 本の短毛を生ずる。

一般にクヌギの若葉の裏面に寄生するが, クリにも寄生することが記録されている。産卵雌虫と雄虫は 8 月下旬から出現, 卵態で越冬する。

(3) クワナケクダアブラムシ *Greenidea (Trichosiphum) kuwanai* (PERGANDE) (図-3: 45)

無翅胎生雌虫は暗褐色, 体長約 2.5 mm。頭部と前胸部とは癒合する。頭部背面の毛は約 20 本。触角は 6 節, 第 3 節は最長で頭幅よりもわずかに短く, 長毛は 27~30 本。口吻末端節は後脚附節第 2 節の 1.84 倍長, 二次毛は約 9 対。腹部背面の皮膚は滑らかであるが, 腹面と側面には微細な突起を全面に装う。第 7 節背面は第 6 節と癒合し毛は 10~20 本。角状管の両端は黒褐色で中央部は黄褐色, 基部わずかに網目状, 長さは後脚脛節の 0.8~0.9, 多数の長毛を生ずる。有翅胎生雌虫の体長約 3.6 mm。触角第 3 節の二次感覚器は約 13~25 個。腹部第 7 節背面の毛は約 30 本。

本種はクヌギ, カシ類, シイ類, クリなどに寄生し, 日本全土に広く分布する普通種である。

(4) ニッポンケクダアブラムシ *Greenidea (Trichosiphum) nipponica* SUENAGA (図-3: 40)

無翅胎生雌虫の体長約 2.5 mm。光沢ある黒褐色。頭部と前胸部とは癒合する。頭部背面の毛は約 35~50 本。触角は 6 節, 第 3 節の毛は 34~40 本。口吻末端節は後脚附節第 2 節の 1.4~1.6 倍長, 二次毛は 6 対。腹部第 3~6 節背面は顕著に皮膚肥厚し癒合する。背面膜状部には多数の微細な円錐状顆粒を有する。第 7 節背面の毛は約 3~5 本。角状管は触角第 3 節よりも長く, 後脚脛節の 0.61~0.66, 中央部膨らみ内側は弧をなし, 多数の長剛毛を生じ, 長いものでは中央部直径の約 2 倍長。有翅胎生雌虫は黒褐色, 体長約 2.8 mm。頭部背面の毛は約 30 本。触角は角状管よりも長く, 第 3 節に 8~16 個の二次感覚器を基部 3/4 にそなえる。第 4 節に感覚器を欠く。腹部背面は顕著に皮膚肥厚し, 第 2~7 節は癒合する。

本種はクヌギ, ウバメガシに寄生しよく繁殖するが, クリにも寄生することが知られている。多数の世代を重ねて 11 月初めから中頃には産卵雌虫と雄虫が現れる。

(5) クリオオアブラムシ *Lachnus tropicalis* (van der Goot) (図-3: 42, 43 および口絵)

無翅胎生雌虫は黒色, 体長 4~4.8 mm。頭部背面中央には 1 本の縦条がある。触角は 6 節, 二次感覚器は第 3 節に約 8 個, 第 4 節に約 6 個。第 3 節の毛は基部直径の約 1.5 倍長。中胸腹面に 1 対の有毛小突起がある。口吻末端節は後脚附節第 2 節よりも短い。角状管は有毛の円錐基上にあり, 円形に開口。有翅胎生雌虫は体長約 4.4 mm, 翅は黒色大形で特徴ある斑紋をそなえ, 前翅の中央部と前縁に白色部がある。触角の第 3 節に約 13 個, 第 4 節に約 5 個の二次感覚器をそなえる。産卵雌虫

は無翅で体長約5.6mm, 無翅胎生雌虫と次の点で異なる。触角第3節の毛はその節の基部直径よりも短い。後脚脛節には全長にわたり多数の小円形偽感覚器をそなえる。雄虫は体長約4.2mm, 有翅胎生雌虫と次の点で異なる。触角第3節には約50個, 第4節には約40個, 第5節には約7個の二次感覚器をそなえる。腹部背面各節に斑紋を有するが, 特に第7・8節背面の横帯紋は顕著である。

本種の卵は4月上旬にふ化し, 幼虫は小枝に寄生する。4月中旬には幹母成虫となり, 第2世代の無翅胎生雌虫を産む。第3世代には多くの有翅胎生雌虫が出現して, クリのほかクヌギ, アラカシ, シイ, ウバメガシなどに分散する。夏期も繁殖をつづけて幹や枝によく繁殖し, 幹では蟻道で覆われることがある。11月中頃から産卵雌虫と雄虫が出現して, 卵をクリ, クヌギの樹幹の基部近くに多数産み付け大卵塊をつくる。産卵後卵塊の中に多くの産卵雌虫がマミーとなって残っている(口絵参照)。春, 卵がふ化するころに合わせて, マミーから寄生蜂が出現し, ふ化直後のアブラムシ幼虫に産卵する。これによってアブラムシの個体数はかなり抑制される。

(6) クリイガアブラムシ *Moritziella castaneivora* MIYAZAKI (図-3: 44)

体黄褐色, 体長0.9~1.1mm。体の背面には多くの顕著な乳頭状突起をそなえる。これらの突起にはさらに鱗片状の小突起がある。頭部には7対の乳頭状突起を有し, 背面のものは特に長い。触角は3節からなり, 第3節には先端部に大形感覚器1個と付属小感覚器5個をそなえる。複眼は3個の小眼からなる。胸部背面および側面にも乳頭状突起がある(前胸部7対, 中胸部3対, 後

胸部4対)。腹部第1節に3対, 第2~6節に2対の乳頭状突起をそなえるが, 腹部のものは比較的短小。腹部第7節背面の毛は4本。第8節背面の毛は8本。口吻は長く, 腹部第3節にまで達する。

本種はクリのイガに群生するもので, その発生著しいときには, 早期落果の原因にもなっている。

(7) クリヒゲマダラアブラムシ *Tuberculatus (Nippocallis) kuricola* MATSUMURA (図-3: 38, 39)

有翅胎生雌虫の触角は6節で体長よりも短く, 第3節には5~6本の長剛毛と4~6個の二次感覚器をそなえる。前後翅ともその翅脈両側には顕著な暗褐色斑紋がある。退化翅胎生雌虫は有翅胎生雌虫と翅を除くほかはほとんど形態的に変わらないが, 頭部背面の毛は先端がまるくなるものがある。翅は退化して萎縮している。

新葉や新梢に寄生する。幹母も有翅形である。夏期発生の盛んなときには葉の表面にも葉脈に沿って寄生する。このころには退化翅胎生雌虫が多い。無翅胎生雌虫は出現しない。

III カキを加害するアブラムシ

カキを加害するアブラムシとしてはモモアカアブラムシ *Myzus persicae* (SULZER) が記録されている(ミカンの項参照)。本種はカキの若葉のところにわずかに見られるものである。したがって本種の寄生による被害は少ない。

参考文献

- 主要な参考文献は拙文(本誌第56巻, 第4号: 34頁, 2002)を参照されたい。さらに次のものを追加する。
- 1) 宗林正人(1975): *Rostria* 25, 167~169.
 - 2) ———(1979): *Rostria* 30, 251~253.
 - 3) 米山伸吾・木村 裕(2002) 庭先果樹の病気と害虫, 見分け方と防ぎ方, 農山漁村文化協会, 東京, 204 pp.

学 界 だ よ り

○第17回報農会シンポジウム「植物保護ハイビジョン - 2002」開催のご案内

- テーマ: 生産現場における植物保護剤の貢献
- 日時: 平成13年9月27日(金)10:00~17:00
- 場所: 「北とびあ」つつじホール(東京都北区王子1-11-1, TEL (03)5390-1100), JR京浜東北線・地下鉄南北線「王子駅」下車徒歩2分
- 講演:
 - 10:10 水田とその周辺環境における農薬の生態影響の実態 (本山直樹氏: 千葉大園芸学部)
 - 11:15 IPM 適応農薬の開発—長期残効型殺虫剤の特性と生物評価— (岩谷宏司氏: 元日本バイエルアグロケム株式会社)

- 13:30 資材製造現場の現状と製剤事情 (船山俊治氏: 日本農業株式会社)
- 14:35 茶生産農家の管理作業と病虫害防除の問題点 (久保田敏実氏: 奈良県実践農家)
- 15:45 総合討論
- 17:00 功績者表彰式および祝賀会
- 参加費: 一般5,000円(当日6,000円), 学生1,000円
- 申込み: 9月9日までに郵便振替(口座00100-5-103214)へ振り込みますと前もってテキストと名札が送付されます。10日以降も受付していますので事務局までお問い合わせ下さい。
- 事務局: 〒187-0011 東京都小平市鈴木町2-772 植物防疫資料館内, TEL & FAX (042)381-5455 関口義兼・中村敦子